

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成23年7月～9月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成23年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 23 年 7 月～9 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、多賀城・七ヶ浜、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 148 企業

2. 調査対象期間

平成 23 年 7 月～9 月期を対象として、調査時点は平成 23 年 9 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 4
建 設 業	2 5
小 売 業	4 3
サービス業	4 6
合 計	1 4 8

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 23 年 7 月～9 月)の調査においては、東日本大震災の影響が産業別に跛行性がみられるものの、産業全体の業況D I は、前期より 31.5 ポイント改善し△15.9 (前期△47.4) となった。

今期は、県下全ての産業が売上額(完成工事額)D I 及び採算D I において改善傾向を示し、特に建設業、小売業は全国水準を超える景況の回復が顕著となった。

建設業は材料価格の上昇が不安視されているが、本県は完成工事額D I が前期より改善傾向を続けており、業況D I は 16.0 (前期△4.4) と 20.4 ポイント改善し、全国値を 43.8 ポイント上回るなど復興需要の影響が窺われた。

小売業も、業況D I は△2.5 (前期△42.5) と 40.0 ポイント改善し、全国値を 41.4 ポイント上回り、売上額D I も△2.4 (前期△34.0) と 31.6 ポイント改善した。

サービス業の業況D I は△38.1 (前期△67.3) と 29.2 ポイント改善したが、全国値を 3.4 ポイント下回った。

製造業の業況D I も△27.2 (前期△58.7) と 31.5 ポイント改善したが、全国値を 5.4 ポイント下回っており、回復の遅れが窺われた。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事)D I は、建設業においては 35.9 ポイント、小売業が 31.6 ポイント、製造業は 7.3 ポイント、サービス業は 23.2 ポイント改善し、全産業D I としては△11.8 (前期△36.4) と 24.6 ポイント改善した。

② 採算の状況

採算D I は、建設業が 21.8 ポイント、小売業が 30.1 ポイント、サービス業は 13.3 ポイント、製造業が 8.3 ポイント改善し、全産業D I としては△28.7 (前期△47.5) と 18.8 ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、全産業が増加しており、製造業は 4.5 ポイント、建設業は 16.0 ポイント、小売業は 5.1 ポイント、サービス業 1.8 ポイントの増加であった。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事）D Iは、宮城の建設業が36.0（前期0.1）となり全国値を57.8ポイント上回り復興需要の影響が見られた、宮城の小売業も△2.4（前期△34.0）と大きく改善し全国値を37.6ポイント上回った。

しかしながら、宮城の製造業は△29.4（前期△36.7）と改善傾向にあるが、全国値を11.1ポイント下回り、全国的には東日本大震災以前の状態に戻りつつあるなか、宮城の復旧が遅れていることが窺われた。サービス業も宮城は△34.8（前期△58.0）と改善傾向にあるものの全国値を1.0ポイント下回った。

表-1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 24.9	△ 18.3	△ 29.1	△ 21.6	△ 36.7	△ 29.4
建 設 業	△ 26.0	△ 21.8	△ 30.4	△ 2.0	0.1	36.0
小 売 業	△ 44.2	△ 40.0	△ 47.2	△ 36.2	△ 34.0	△ 2.4
サービス業	△ 44.1	△ 33.8	△ 48.4	△ 28.2	△ 58.0	△ 34.8

② 採 算

採算D Iは、宮城の建設業が0.0（前期△21.8）と改善し全国値を35.9ポイント上回り、小売業も△16.3（前期△46.4）と改善し全国値を26.8ポイント上回った。

また、宮城の製造業は△38.2（前期△46.5）、サービス業は△49.0（前期△62.3）と改善したが、全国値よりも製造業が10.8ポイント、サービス業が10.6ポイント下回った。

表-2 採算の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 33.0	△ 27.4	△ 35.8	△ 28.8	△ 46.5	△ 38.2
建 設 業	△ 40.6	△ 35.9	△ 42.5	△ 23.3	△ 21.8	0.0
小 売 業	△ 46.5	△ 43.1	△ 49.1	△ 41.8	△ 46.4	△ 16.3
サービス業	△ 43.8	△ 38.4	△ 46.1	△ 34.8	△ 62.3	△ 49.0

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上（完成工事）D I の来期見通しは、全産業では 14.5 ポイント悪化すると予測され、産業別には建設業が 31.6 ポイント、小売業が 19.1 ポイント、サービス業が 11.8 ポイント悪化すると予測され、製造業は 3.0 ポイント改善すると予測された。

採算D I の来期見通しについては全産業では 5.1 ポイント改善すると予測され、産業別には、製造業は 10.0 ポイント、サービス業が 13.2 ポイント改善、建設業は 4.4 ポイント、小売業が 2.3 ポイント悪化すると予測された。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上（完成工事）D I の来期見通しは、全国の全産業では 3.7 ポイント悪化すると予測され、宮城の全産業では 14.5 ポイント悪化すると予測された。産業別には建設業、小売業において宮城は全国を上回り、製造業、サービス業において宮城は全国を下回ると予測された。

採算D I の来期見通しは、全国の全産業では 2.0 ポイント改善すると予測され、宮城の全産業では 5.1 ポイント改善すると予測された。産業別には、売上（完成工事）D I と同様であり、建設業、小売業が宮城は全国を上回り、製造業、サービス業は宮城が全国を下回る予測となった。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 18.3	△ 19.5	△ 29.4	△ 26.4
建 設 業	△ 21.8	△ 30.3	36.0	4.4
小 売 業	△ 40.0	△ 44.0	△ 2.4	△ 21.5
サービス業	△ 33.8	△ 36.8	△ 34.8	△ 46.6

表－4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 27.4	△ 25.4	△ 38.2	△ 28.2
建 設 業	△ 35.9	△ 36.0	0.0	△ 4.4
小 売 業	△ 43.1	△ 41.2	△ 16.3	△ 18.6
サービス業	△ 38.4	△ 35.1	△ 49.0	△ 35.8

2. 県下産業別の景況

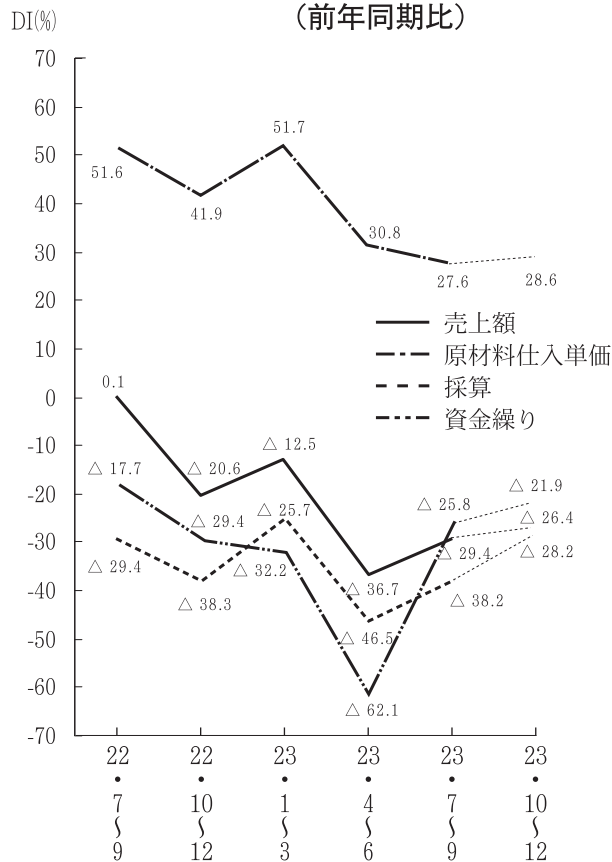
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前期比で、売上（加工）額D Iは今期△29.4（前期△36.7）となり7.3ポイント、採算D Iも△38.2（前期△46.5）と8.3ポイント、資金繰りD Iも△25.8（前期△62.1）と36.3ポイント改善し、特に資金繰りの改善が顕著となった。

また、原材料仕入単価も27.6（前期30.8）と3.2ポイント下降し若干高止まりであるが小康状態を保っている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



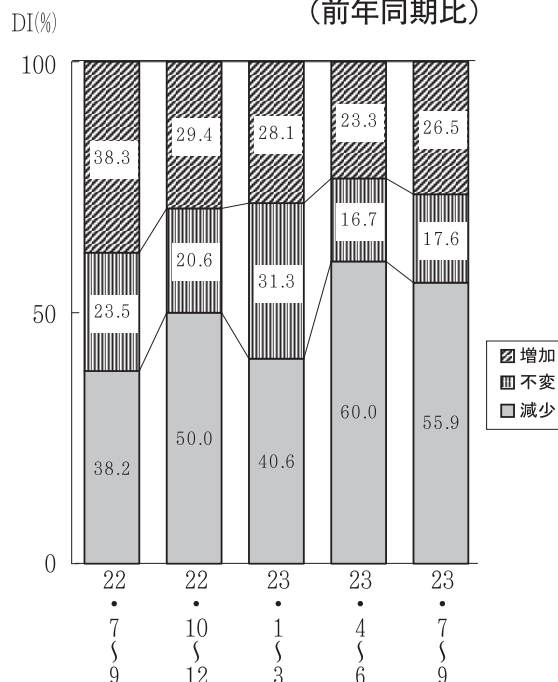
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の26.5%（前期23.3%）で前期比3.2ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は55.9%（前期60.0%）と前期比4.1ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは△29.4（前期△36.7）となり前期比7.3ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

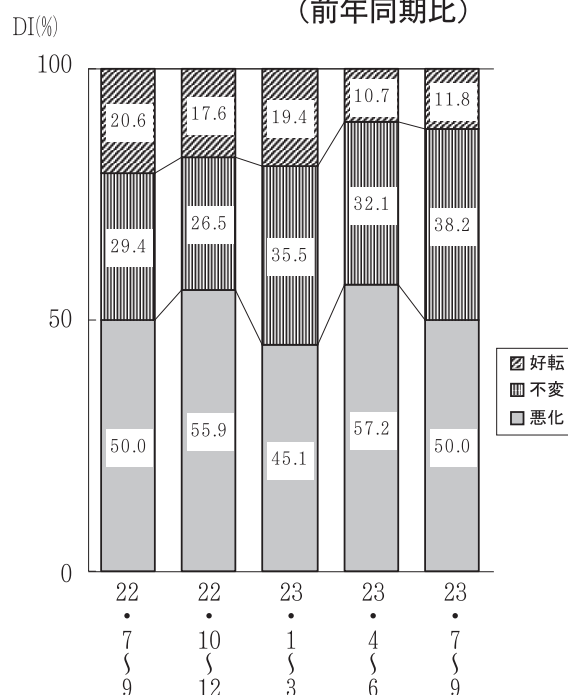


(b) 採算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の11.8%（前回10.7%）で前期比1.1ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は50.0%（前回57.2%）で前期比7.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは△38.2（前期△46.5）となり前期比8.3ポイント改善した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



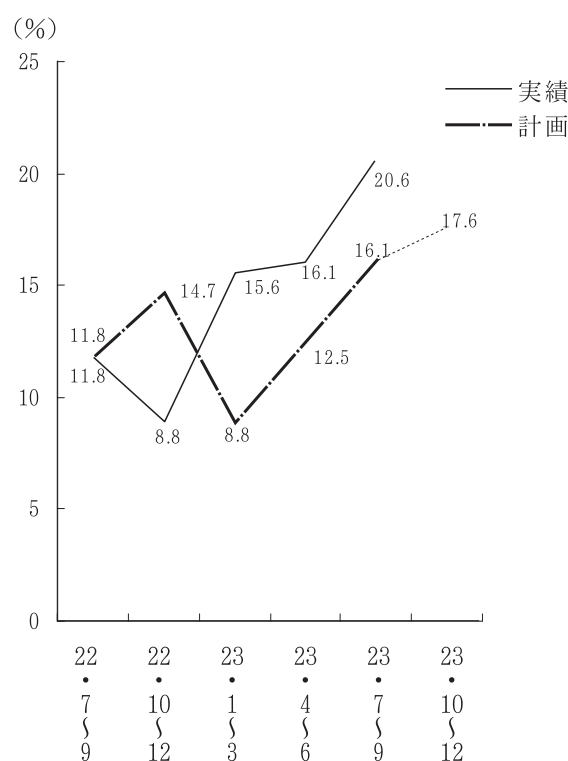
(c) 設備投資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の20.6%（前期16.1%）で前期比4.5ポイント増加した。

その設備内容は生産設備、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の17.6%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

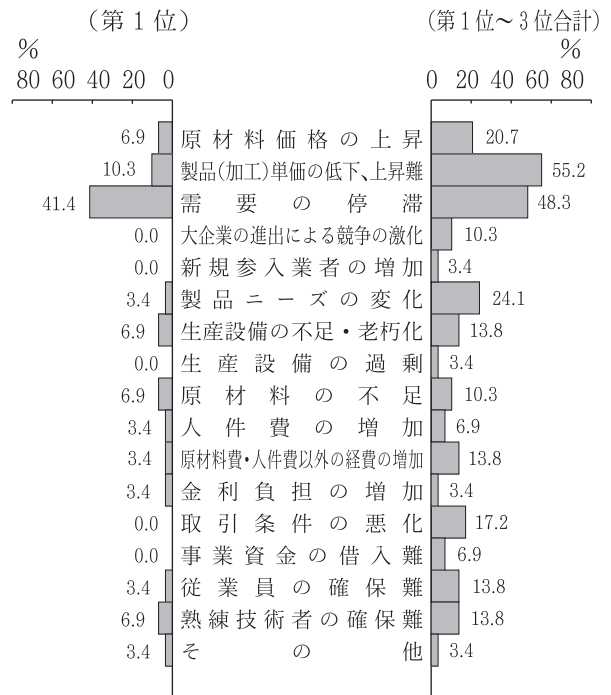


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(41.4%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(10.3%)、そして「原材料価格の上昇」、「生産設備の不足・老朽化」、「熟練技術者の確保難」、「原材料の不足」が6.9%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(55.2%(複数回答以下同じ))、次いで「需要の停滞」(48.3%)、そして「製品ニーズの変化」(24.1%)、「原材料価格の上昇」(20.7%)と続いた。

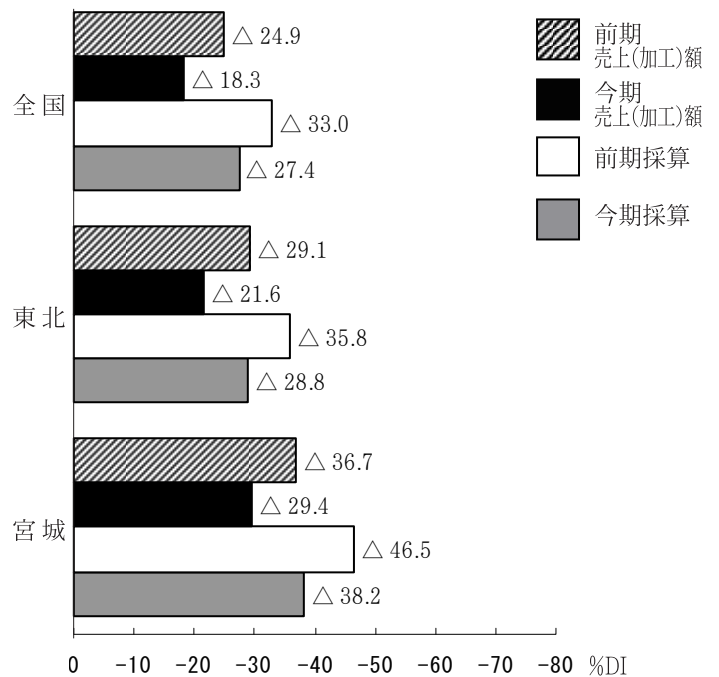
図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国、東北、宮城いずれも売上(加工)額DI、採算DIともに改善しているが、それぞれの改善幅に大きな違いは見られず、全国DIと比較し東北が若干劣り、宮城はより低位にあることから宮城の回復が遅れていることが窺えた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



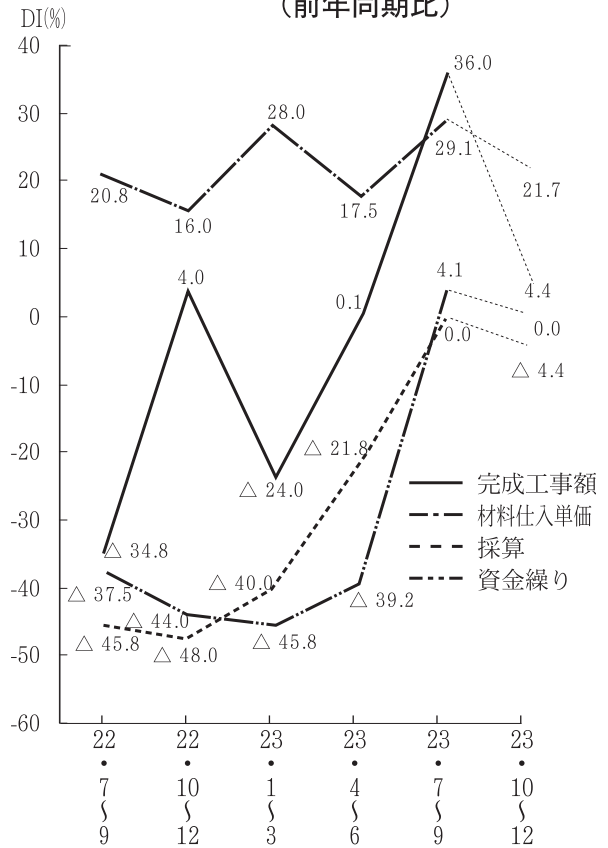
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前期比で、完成工事（請負工事）額DIは36.0（前期0.1）で35.9ポイント、採算DIも0.0（前期△21.8）と21.8ポイント改善した。

また、資金繰りDIも4.1（前期△39.2）と43.3ポイント改善し、大幅な回復基調を示しているが、材料仕入単価DIは29.1（前期17.5）と11.6ポイント上昇しており、経営上の問題点としても最重点項目となっている。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



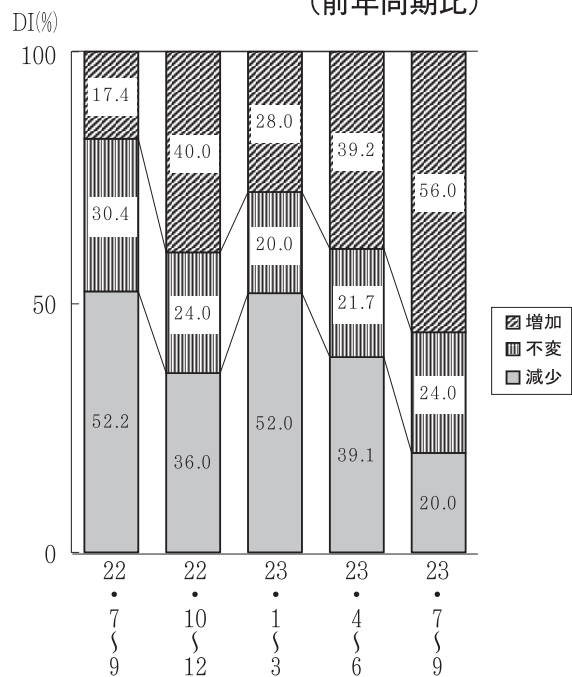
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の56.0%（前期39.2%）であり、前期比16.8ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は20.0%（前期39.1%）と前期比19.1ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額DIは36.0（前期0.1）と前期比35.9ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

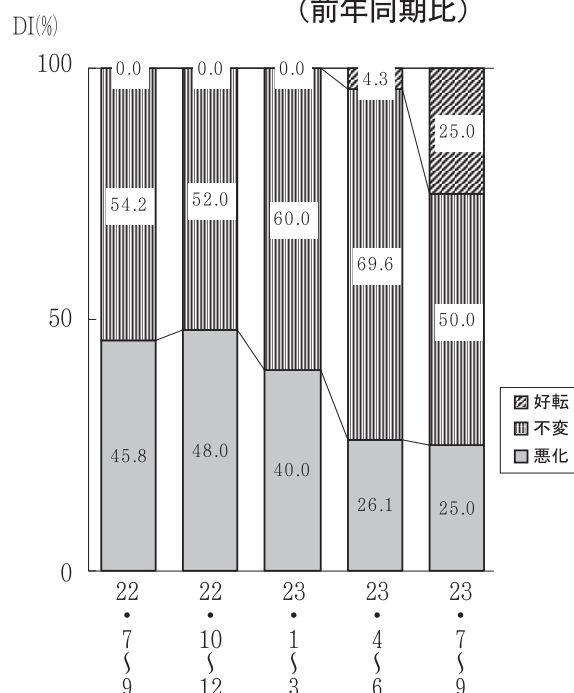


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の25.0%（前期4.3%）であり前期比20.7ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の25.0%（前回26.1%）であり前期比1.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは0.0（前期△21.8）となり、前期比21.8ポイント改善した。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)

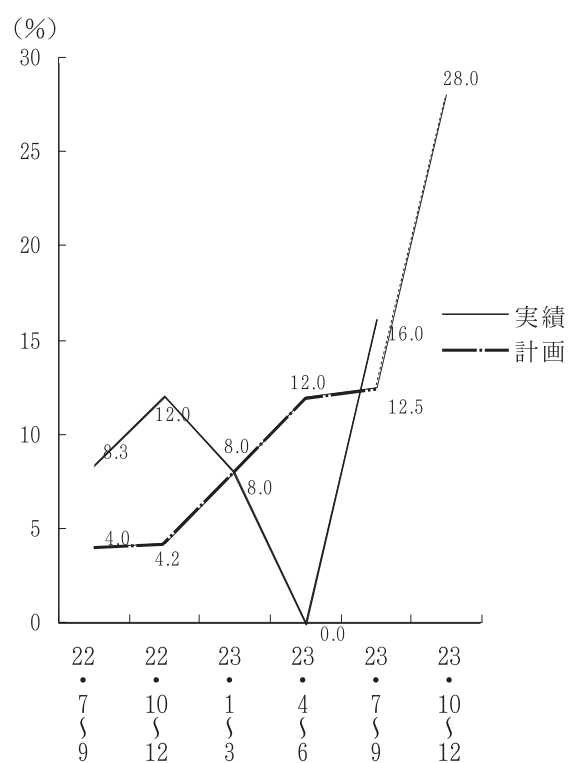


(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の16.0%（前期0%）で前期比16.0ポイント増加した。その設備内容は車両・運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備計画をしている企業は、全体の28.0%であり、その設備内容は土地、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設、その他を計画している。

図2-4 設備投資の状況

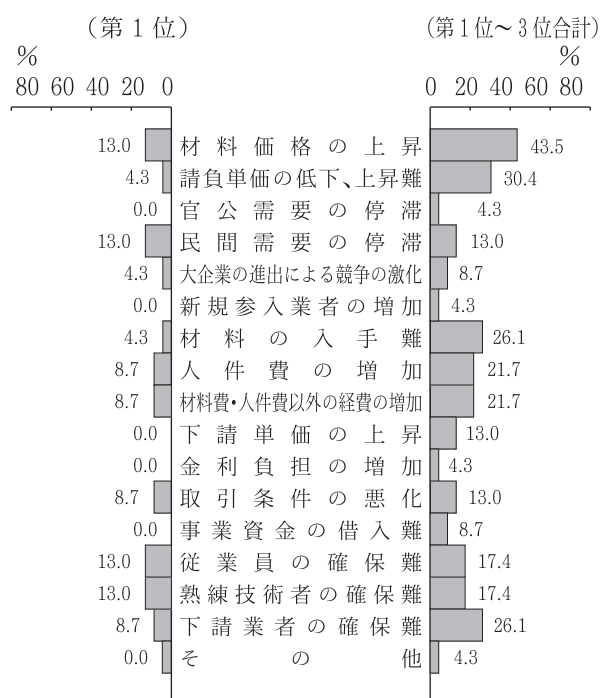


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料価格の上昇」、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」、「民間需要の停滞」の4項目が13.0%と同率で並び、次いで「下請業者の確保難」、「人件費の増加」、「材料費・人件費以外の経費の増加」、「取引条件の悪化」の4項目が8.7%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」(43.5%(複数回答以下同じ))、「請負単価の低下、上昇難」(30.4%)、「下請業者の確保難」と「材料の入手難」が26.1%と同率で続いた。

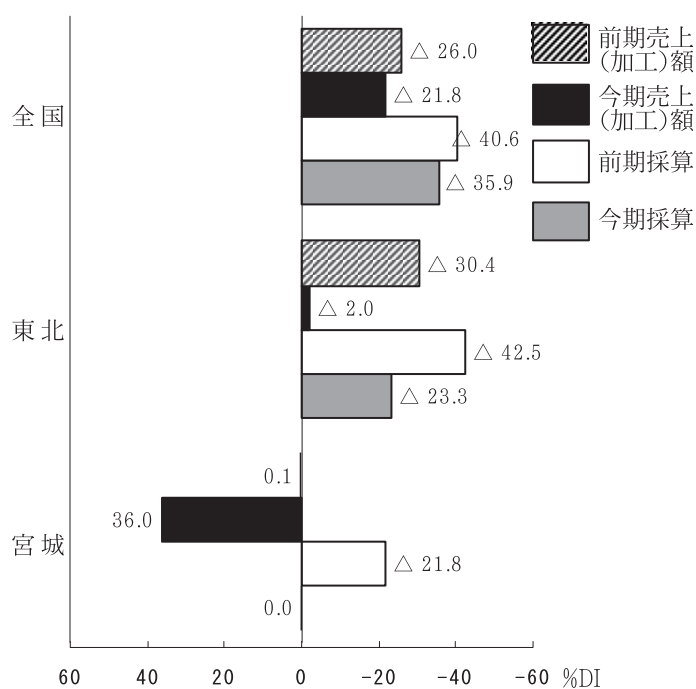
図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国の完成工事(請負工事)額DI、採算DIともに低迷するなか、宮城は復興需要により材料の入手難に悩みながらも完成工事(請負工事)額DI 36.0(前期 0.1)、採算DI Δ 0.0(前期 Δ 21.8)と大きく改善させ、東北も完成工事(請負工事)額DI Δ 2.0(前期 Δ 30.4)と改善傾向がみられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



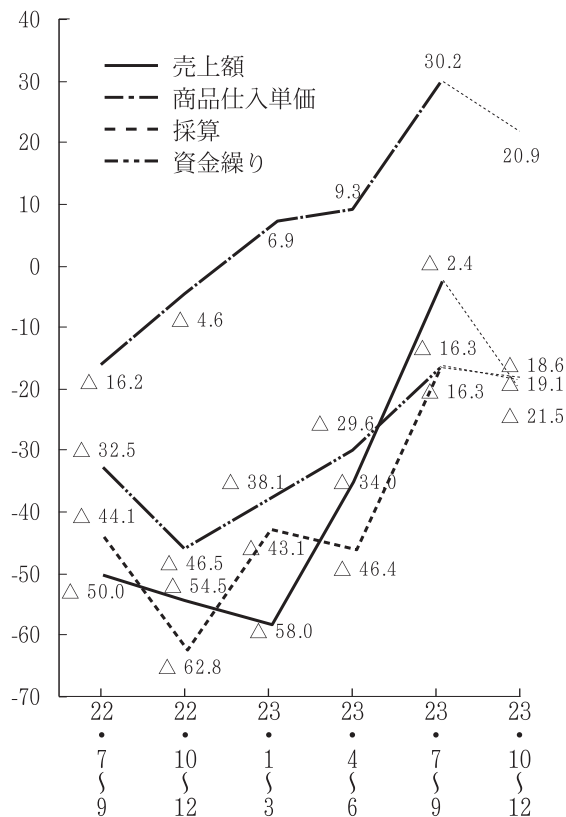
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前期比で、売上額DIは△2.4（前期△34.0）で31.6ポイント、資金繰りDIも△16.3（前期△29.6）と13.3ポイント、採算DIも△16.3（前期△46.4）で30.1ポイント改善した。

しかしながら、商品仕入単価DIは30.2（前期9.3）で20.9ポイント上昇し仕入単価の上昇傾向が続いている。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



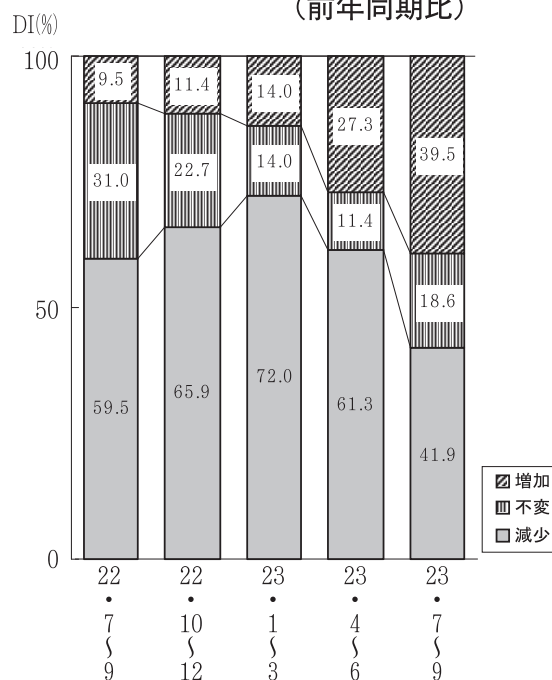
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の39.5%（前期27.3%）と前期比12.2ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は全体の41.9%（前期61.3%）と前期比19.4ポイント減少した。

その結果、売上額DIは△2.4（前期△34.0）と前期比31.6ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

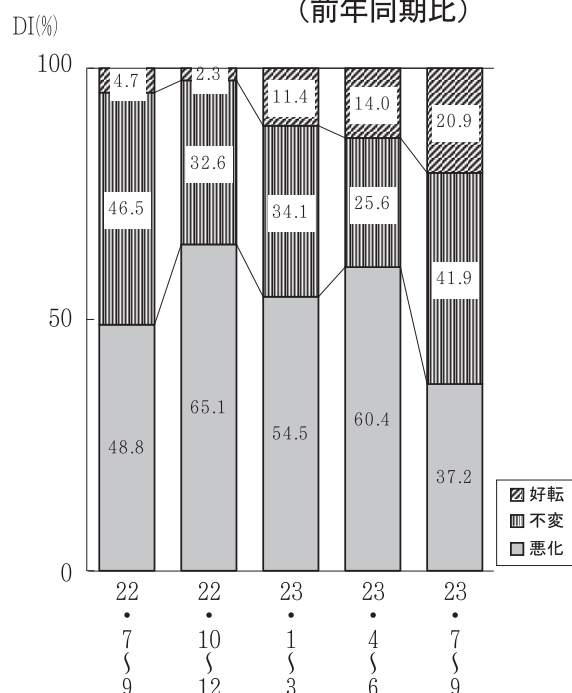


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の20.9%（前期14.0%）と前期比6.9ポイント増加し、「悪化・低下」の回答は全体の37.2%（前期△60.4%）で前期比23.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは、△16.3（前期△46.4）となり、前期比30.1ポイント改善し全国DI△43.1を26.8ポイント上回った。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)

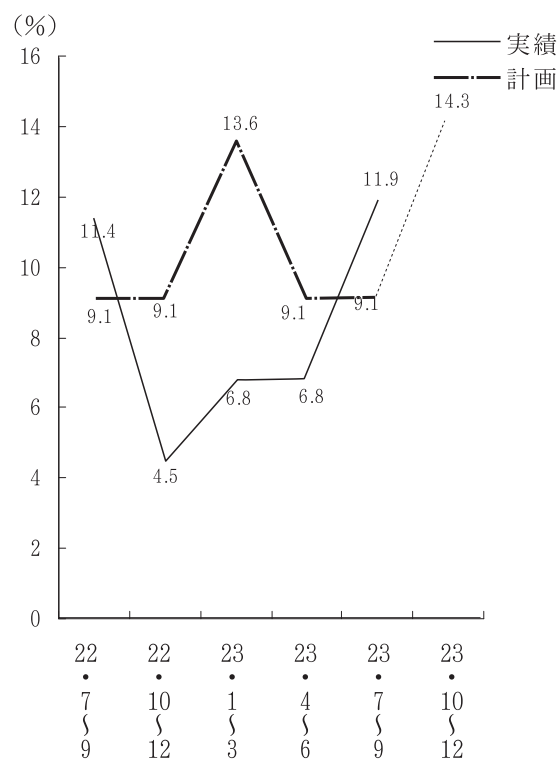


(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の11.9%（前期6.8%）で5.1ポイント増加した。その内容は販売設備、車両・運搬具、その他であった。

来期に設備計画している企業は14.3%で、その内容は、店舗、販売設備、車両運搬具、OA機器を想定している。

図3-4 設備投資の状況

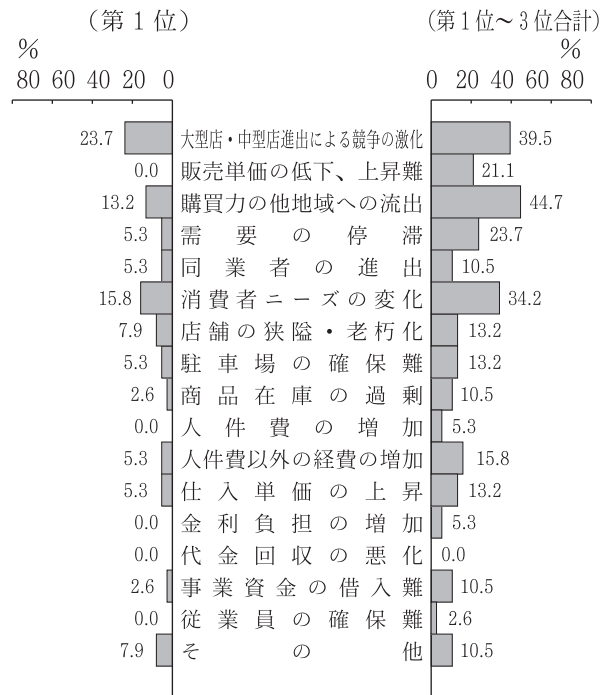


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(23.7%)、次いで「消費者ニーズの変化」(15.8%)、「購買力の他地域への流出」(13.2%)、と続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「購買力の他地域への流出」(44.7% (複数回答以下同じ))、次いで、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(39.5%)、「消費者ニーズの変化」(34.2%)と続いた。

図3-5 経営上の問題点

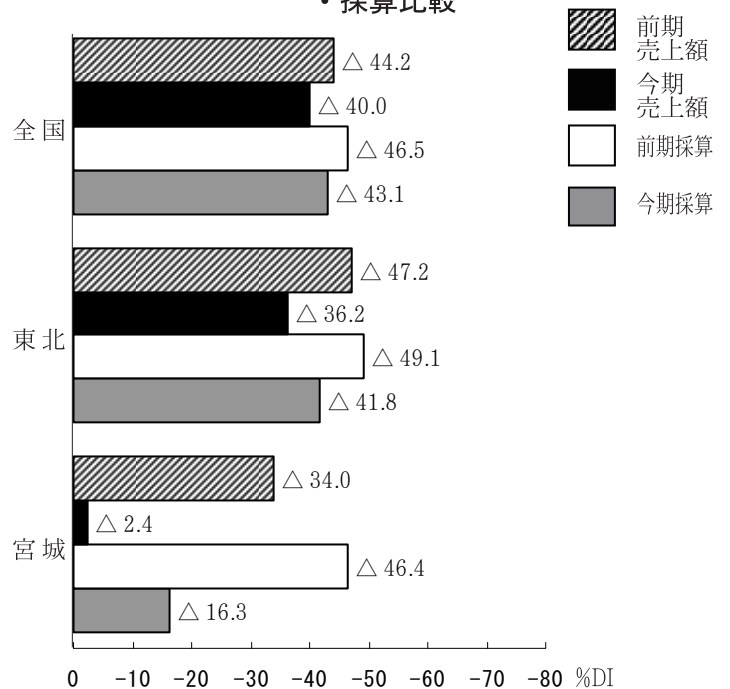


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城全て改善傾向となったが、特に宮城の改善幅が大きく全国を37.6ポイント上回った。

採算DIについては、全国、東北、宮城全て改善傾向となったが、特に宮城の改善幅が大きく全国を26.8ポイント上回った。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



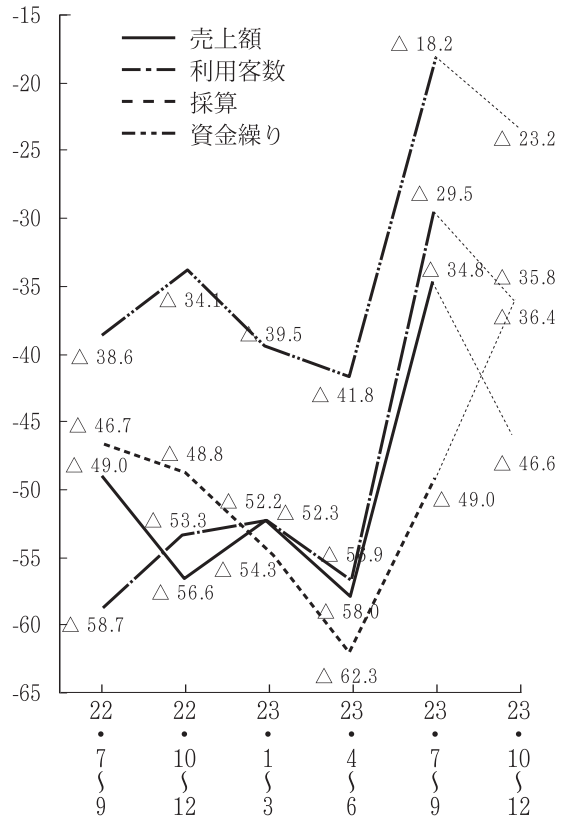
(4) サービス業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

昨年比で、売上（収入）額D Iが△34.8（前期△58.0）で23.2ポイント改善し、利用客数D Iも△29.5（前期△56.9）で27.4ポイント改善した。

また、資金繰りD Iも△18.2（前期△41.8）と23.6ポイント改善し、採算D Iも△49.0（前期△62.3）と13.3ポイント改善させ、今期の宮城は持ち直しの動きを見せた。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



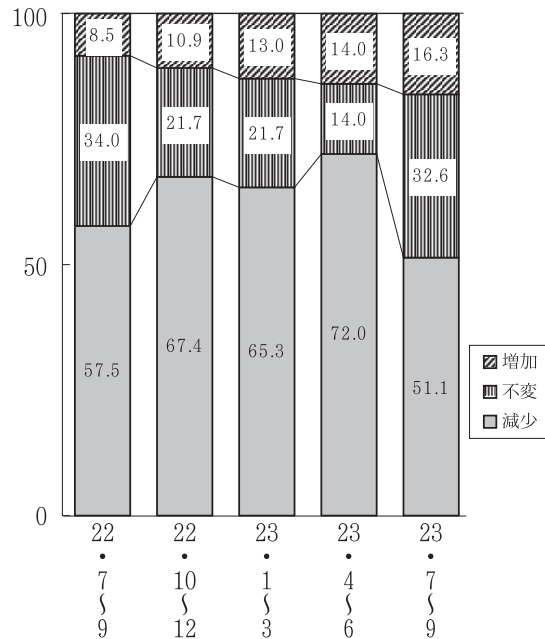
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の16.3%（前回14.0%）で前期比2.3ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は51.1%（前回72.0%）で、前期比20.9ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは△34.8（前回△58.0）で前期比23.2ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

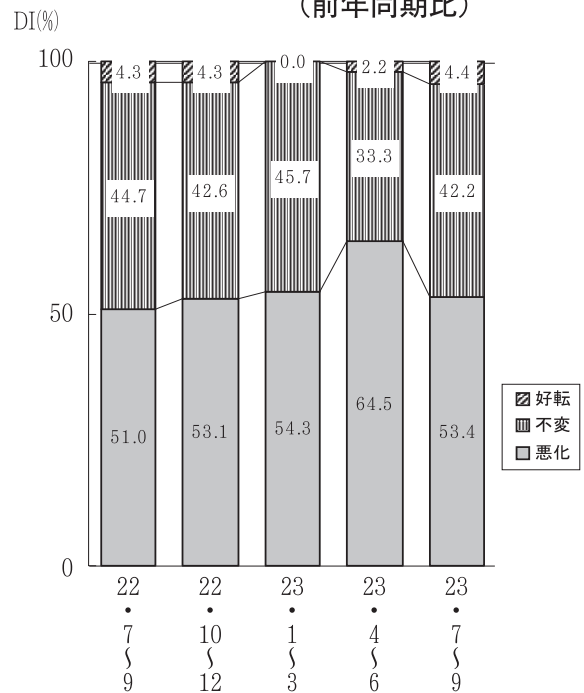


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の4.4%(前回2.2%)で前期比2.2ポイント増加し、「低下・悪化」と回答した企業は53.4%(前回64.5%)と、前期比11.1ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△49.0(前回△62.3)となり、前期比13.3ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



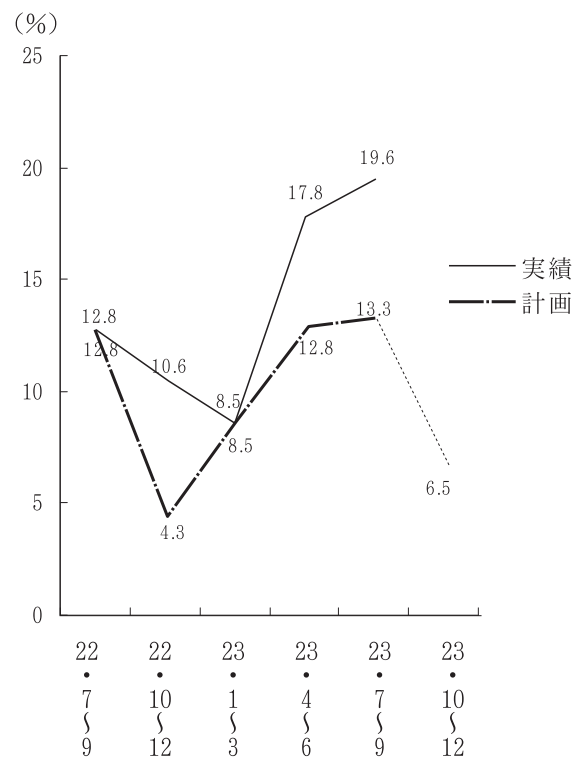
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の19.6%(前期17.8%)で前期比1.8ポイント増加した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、6.5%であり、その内容も、建物、サービス、車両・運搬具、付帯設備となっている。

図4-4 設備投資の状況

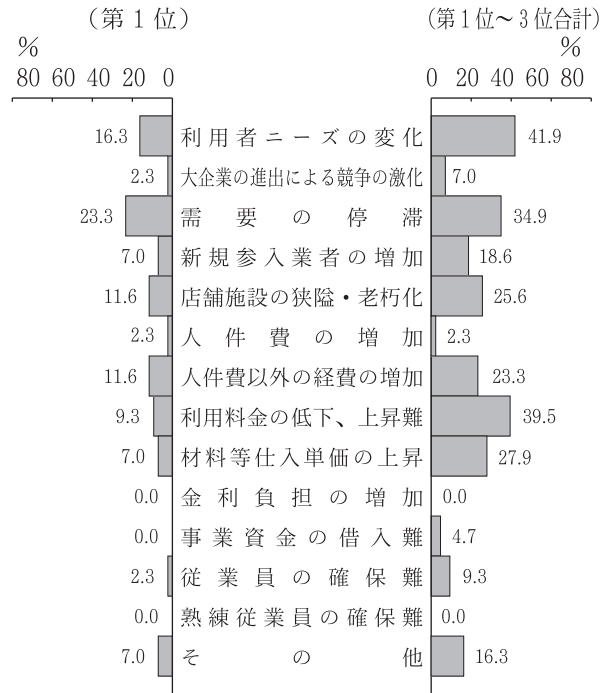


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(23.3%)
次いで「利用者ニーズの変化」(16.3%)、
「店舗施設の狭隘・老朽化」、「人件費以外
の経費の増加」が11.6%と同率で続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「利用
者ニーズの変化」(41.9%(複数回答以下同
じ))次いで、「利用料金の低下・上昇難」
(39.5%)、「需要の停滞」(34.9%)、「材料
等仕入単価の上昇」(27.9%)、「店舗施設の
狭隘・老朽化」(25.6%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点

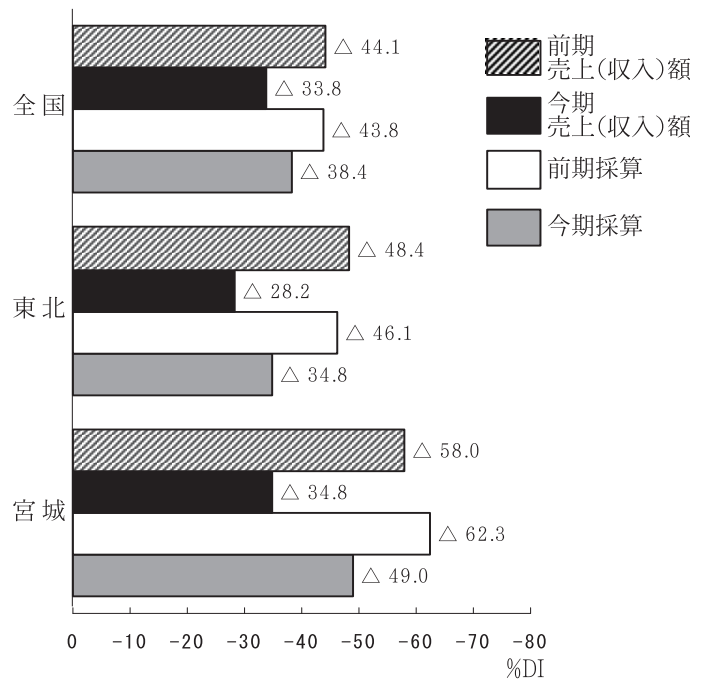


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城全て改善傾向となったが、特に宮城の改善幅が大きく前期13.9ポイントあった全国からのマイナス幅が今期1.0ポイントに縮小した。

採算DIについても、全国、東北、宮城ともに改善したが、宮城の全国からのマイナス幅が10.6ポイントとなっている。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています